特集1
米原の未来を変える若者たち
マイバラチェンジャー

▲伊吹山テレビでもご紹介します!(6月6日(金)公開)

農業で、米原の「お助けマン」になる!

移住者・農業者
五味 裕貴(32)

1992年6月生まれ。大阪府八尾市出身。
2018年に現在の会社へ転職したことをきっかけに農業を始める。2020年に大阪から米原へ移住し、現在は農園会社取締役社長兼COO(最高執行責任者)として、米原での米づくりを中心に農業に取り組んでいる。
食用米のほかに、米粉パンに使用する米粉用のお米づくりも行い、「将来的にはもっと耕作面積を増やしたいし、生産から加工まで全て自分たちで担えるような体制をつくっていきたい」と目標を語る。

安全・安心にこだわったお米づくり

大阪にいた頃に、ご縁があって現在勤めている会社の代表と出会い、新規事業として農園会社を立ち上げるタイミングで僕も関わらせてもらうことになりました。

当初は大阪で野菜づくりを中心に農業に取り組んでいましたが、2020年に米原に拠点を移し、現在はここでお米づくりを行っています。お米は無農薬にこだわり、食の安全・安心を消費者の皆さまにお届けすることを大切にしながら、「おいしい」と感じていただけるお米ができるよう日々頑張っています。

地域の「お助けマン」として米原の農業に貢献したい

僕は大阪から移住してきて米原で農業をさせてもらっているので、米原の農業を安心して任せてもらえるよう、まずは地域の人たちに僕たちのことを知ってもらいたいということで、仲間たちと一緒に作業風景などの動画配信にも取り組んでいます。

そんな中、昨年、地域の方から「稲刈りを代わりにしてもらえないか」というお声をいただくことがありました。もちろん稲刈りも、田植えも、草刈りでも僕たちで担えることはどんどんさせてもらいたいと思っていますし、こうして地域の「お助けマン」のような存在として、畑や田んぼができなくて困っている人たちのお手伝いをさせていただくなど、米原の農業に貢献していけたらいいなと思っています。

▲新しく導入した自動田植え機の動作を見守る五味さん

▲会社の仲間たちとの田植え作業。地域の方に自分たちのことを知ってもらいたいと、鮮やかな原色カラーの作業着を着用している。

▲昨年秋に行った稲刈り作業

米原(こめのはらっぱ)はお米づくりにぴったり

実は、こちらに来る前は「米原って田舎なのかな?」と思ったこともありました。でも実際に住んでみると、自然が多く、のどかで過ごしやすいなという印象で、今では米原に来て良かったと思っています。新幹線の停車駅もあり、今後は僕のように移住してくる人も増えるんじゃないかなと、まちの未来や発展の可能性を感じています。

それに、米原は「米(こめ)の原(はらっぱ)」と書きますよね。そこもお米づくりにはぴったりで、僕にとっては縁のある場所だったなと思っています。

農業の未来を見据えて

農業に従事する人が減っている今、少ない人数でも農業に取り組めるよう、スマート農業を積極的に取り入れています。今回も、田植えの時期にあわせて新しく自動運転の田植え機を導入したところです。

今後、農業全体の将来を考えた時に、田んぼや畑ができなくて、最終的には荒れ地が増えてしまうのではないかと感じています。そうならないように、スマート農業の導入など、なるべく少人数でもできる農業に取り組んだり、お米づくりができなくなった人たちの田んぼを僕たちが担わせていただくなど、農地を守っていけるような活動を続けていきたいです。

今農業をされている方も、これから始めてみたいという方も、農業の明るい未来のために、ぜひ一緒に頑張っていけたらいいなと思っています!